

福祉 みやぎ

2024 / 9月号 vol.635

CONTENTS (主な内容)

P2 特集

子どもの遊び場づくりから、互いに気にかけて地域づくりへの広がり
～一般社団法人プレーワーカーズの取組～

P4

Heart&Works (ハート&ワークス)
赤い羽根共同募金運動について

P6

ひとまちこころ
福祉の仕事の魅力発信

P7

グッジョブFUKUSHI
社会福祉法人宮城厚生福祉会 介護老人福祉施設 田子のまち

P8

こんなことやってます
宮城県発達障害者支援センター「えくぼ」
障害福祉サービス事業所 宮城県援護寮

P10

地域に根差した社会貢献活動について
～一般社団法人生命保険協会宮城県協会の取組～

P11

シニアだより
宮城いきいき学園 登米・栗原校編

P12

県社協掲示板

作者 みなみデイサービスセンター／気仙沼市 タイトル 折り紙「溪流下り」

折り紙で竜の船を制作し、思い思いの秋の景色を和紙で描きました。
今年はどんな紅葉狩りになるかワクワク楽しみです。



子どもの遊び場づくりから、 互いに気にかける

地域づくりへの広がり

〜一般社団法人プレーワーカースの取組〜



▲「子どもの居場所〇〇」の庭で遊んでいる様子

誰でも遊びに来ることができる場所

宮城県名取市にある「子どもの居場所〇〇（まるまる）」以下、「〇〇」という。は、年齢や学区に関係なく誰でも来ることができる、家の中や庭で自由に遊ぶことができる場所です。事前の登録や申込みは必要なく、着替えが用意されているため、子ども達は服の汚れを気にせずに遊ぶことができます。運営しているのは「一般社団法人プレーワーカース」以下、「プレーワーカース」という。です。「プレーワーカース」では、子どもにとつての遊びは単なる余暇ではなく、食べることや寝ることと同じように生きるために必要なことと考え、「〇〇」の運営のほか、車に遊び道具を詰め込んだ「プレーカー」で各地へ遊び場を届ける活動などに取り組んでいます。

「〇〇」の特徴の一つとして挙げられるのが、子どもだけではなく大人も利用することができるということ。このことについて、「プレーワーカース」の代表理事である須永力さんは、「社会には子どもから高齢者までいるのが当たり前。子どもの居場所だからと言って、子どもしか来ることができな

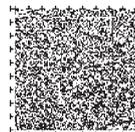
いのはすごく不自然」と話します。実際に遊びに来るのは小学校高学年から中学生までの子が多いとのことですが、プレーワーカースでは「〇〇」を誰でも利用できる場所にしたいという思いから、「0歳〜200歳までの人が遊べる場所」として運営しています。

触れ合いから生まれる理解

須永さんには、子どもの遊び場づくりなどの活動について、「子どもだけではなく、様々な人が集える場所にする



▲一般社団法人プレーワーカース代表理事の須永力さん（後方はプレーカー）





▲「子どもの居場所〇〇（まるまる）」の外観

ことで、年代や障害の有無などを問わず誰もが触れ合うことができる地域づくりにつながっていききたい」という思いがあるとのこと。「〇〇」には発達障害のある子どもが親子で遊びにきたり、近所の高齢者が野菜を持ってきてくれたりと、幅広い年代の様々な人が訪れ、地域の子とも達と関わりをもっています。このことについて、須永さんは「実際に触れ合うことがお互いの理解につながる。子どもの時から様々な人と関わって理解し合うことが、将来的に気

にかけ合う地域づくりにつながるのではないかと話されました。また、地域の中で子どもや障害者を目にしたりと関わったりする機会が少なくなったと感じているという須永さん。お互いに気にかけて合う地域をつくっていくために、「学校や障害者施設などと地域が関わる機会が、今よりも増えると良いと思う」とも話されていました。

自由な遊び場が各地に広がるように

子ども達が自由に楽しめる遊び場であるプレーパークは、現在、宮城県内の11市町に28か所あり、その運営主体は様々とのこと。プレーワーカーズでは面積や人口から各市町村に必要なプレーパークの数を割り出し、その合計値である114か所の設置を目標に掲げて活動しています。須永さんによると、「子どもが自力で来て、自力で帰ることができるということが重要であり、そのためには最低限このぐらいの数が必要だと考えている」とのこと。遊び場づくりの活動が各地に広がるように、そして、そこから年代や障害の有無などを問わず、誰もが関わりをもつて暮らすことができる地域づくりにつ



▲プレーワーカーズが運営に携わっている利府町にある加瀬沼プレイパークの様子

ながっていくように、「プレーワーカーズ」では遊び場づくりを担える人材の育成や、行政や市民団体等の要望に応じた活動支援なども行っています。

取材を終えて

須永さんによると、「子どもの居場所〇〇（まるまる）」という名称には、「ここに来た子ども達が、それぞれ自分にとってちょうど良い名前を心の中でつけてほしい」という思いが込められて

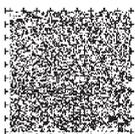
いるとのこと。「この場所のように、社会には子どもが自由に過ごすことができる環境が必要だと思う」と話す須永さん。そのような環境の中で、子どもが様々な人と関わりながら育っていくことが、互いに気にかけて合う地域づくりにつながっていくのではないかと感じました。今後の「プレーワーカーズ」の活動や、遊び場づくりなどの活動の広がりに期待したいと思います。

一般社団法人プレーワーカーズ

(住所) 名取市高館熊野堂字飛鳥中3
(電話) 022-397-7507

子どもの居場所〇〇（まるまる）

(住所) 名取市下増田丁地96-2



Heart & Works

赤い羽根共同募金運動

共通助成テーマ

つながりをたやさない社会づくり～あなたは一人じゃない



▲令和5年度の運動開始セレモニーの様子（元バレーボール女子日本代表 佐藤あり紗さん）

社会福祉法人 宮城県共同募金会
皆さまの温かい善意に支えられ「赤い羽根共同募金運動」は、今年も10月1日から全国一斉にスタートします！

じぶんの町を良くするしるし

共同募金運動は、戦後間もない昭和22年に「国民たすけあい運動」として始まりました。当初は戦後復興の一助として、被災した福祉施設を中心に支援が行われ、その後、法律（現在の「社会福祉法」）に基づき、地域福祉の推進のために活用されてきました。地域社会が変化する中、共同募金は、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らすことができるよう、さまざまな地域福祉の課題解決に取り組む民間団体を支援しています。



▲昭和22年度運動ポスター

令和5年度は、宮城県内で約3億5千6百万円のあたたかい募金が寄せられています。皆さまからの募金は「じぶんの町をはじめ、私たちの宮城県」を良くするために使われます。



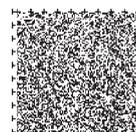
▲不登校の子どもたちへの支援活動



▲ひとり親家庭へのランドセルプレゼント活動

「災害時の支援」

いつ、どこで起こるかわからない大規模災害時、共同募金会は、被災者の生活や支援者の活動を支えるための「3つの募金」を行います。このような支援事業を行えるのは、全国運動である共同募金の大きな特徴です。





▲被災地で活動する大学生ボランティア（石川県穴水町）

1. 義援金	お寄せいただいた義援金は、被災地の自治体及び関係機関で構成される義援金配分委員会によって配分が決定され、被災された皆さまの生活再建のために届けられます。
2. 支援金	災害時には、多くのボランティアやNPOが被災地に駆けつけ、被災者支援や復興支援活動が行われます。こうした支援活動を支える新たな資金支援の仕組みとして、中央共同募金会では「災害ボランティア・NPO活動サポート募金」（通称：ボラサポ）を創設し、寄付募集や助成を行ってきました。義援金とは別の「支援金」として、災害発生時はボラサポによる支援を行っています。
3. 災害等準備金	社会福祉法第118条に基づき、毎年、共同募金の一部を「災害等準備金」として積み立てています。災害が発生した際に、被災者とボランティアをつなぐ災害ボランティアセンターの立ち上げ経費や運営費等に役立てられています。

SDGs（持続可能な開発目標）は、「誰一人取り残さない」社会の実現を目指し、経済・社会・環境をめぐる広範な課題に総合的に取り組むことを目指しています。

赤い羽根共同募金は、地域社会が直面する社会課題や、公的制度等では十分に対応できないさまざまな生活課題を解決する草の根的な福祉活動への助成を通じて、SDGsの目指す社会実現に向けた取組を進めています。

企業・団体の皆さまがSDGsと連動した取組をはじめめるにあたり、赤い羽根共同募金へご支援いただくこともSDGsの実現につながります。



▲令和6年能登半島地震（石川県輪島市）

共同募金会では、ご自身の財産や、相続された財産を、ご自身の愛着ある地域の福祉のために活用してほしいというご相談が増えています。わが国では、孤独死や自殺の増加、不登校やひきこもりの問題、経済的に困窮状態にある家庭の問題など、さまざまな生活課題が顕在化し、社会問題となっています。共同募金会では、皆さまからお預かりした貴重な財産を、身近な地域のさまざまな福祉課題の解決につなげていくことが可能です。

【宮城県共同募金会が連携できる主なSDGs目標】

1 貧困をなくそう
2 飢餓をゼロに
3 持続可能なエネルギー
4 質の高い教育をみんなに
5 ジェンダー平等を実現しよう
10 人や国の不平等をなくそう
11 持続可能な都市をつくらせよう
16 平和と公正な世界を築こう
17 パートナーシップで目標を達成しよう

宮城県共同募金会は、地域に暮らす人びとが共にたすけあい、安心して生活が送れるような地域社会づくりに寄与していきたいと考えています。今年も皆さまの赤い羽根共同募金運動への積極的なご参加を心よりお願い申し上げます。

（宮城県共同募金会寄稿）



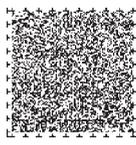
▲令和6年度運動ポスター

困った時は「おたがいさま」が「おかげさま」となり、恩を恩返しする循環が生まれてきます。まさに、共同募金は、「おたがいさま」と「おかげさま」を実践している運動です。

「おたがいさま」と「おかげさま」

赤い羽根共同募金から
ご遺贈・相続寄付に関するご案内
あなたたちの未来のために、贈るものはあふれます

▲遺贈・相続寄付パンフレット



ひとまち こころ

このコーナーでは福祉の職場で働く人へインタビューを行い、仕事の魅力などを紹介します。

宮城県社会福祉協議会に入職した理由を教えてください。

学生時代から障害者や高齢者を支援する仕事に興味を持っており、福祉について学んでいました。宮城県社会福祉協議会では障害者や障害児、高齢者などを対象とした施設を運営しているので、様々な特性を持った方々と関われるのではないかと思います。入職しました。

日頃の業務内容を教えてください。

入職後、宮城県第二啓佑学園に配属され、今年で3年目になります。第二啓佑学園は主に知的障害のある方が入所している施設です。利用者の方々の特性に合わせて、食事や入浴、排泄など日常生活上の支援を行っています。また、施設内での行事や、利用者の希望に応じた外出支援など、利用者の方々に日々の生活の中で楽しみを感じていただけるような支援も行っています。



▲活動支援の様子

どのような時にやりがいを感じますか。

利用者との会話の中で、「～に行きたい」「～さんに会いたい」などと話されることがありますが、簡単には実現しない場合も多くあります。そのような時に、すぐに諦めてしまうのではなく、ご本人や他の職員とどのようにしたら実現できるのかを考え、話し合いを重ねて実現できたことがありました。その時に、利用者から「楽しかった」「嬉しかった」などの喜びの声を聞くことができ、やりがいを感じることができました。



PROFILE

社会福祉法人宮城県社会福祉協議会
宮城県第二啓佑学園 生活支援ワーカー

みやにし わたる
宮西 渉

入職日
令和4年4月1日

休日の過ごし方
パドミントンをしたり、
ドライブをしています。

日々の業務の中で難しさを感じることはありますか。

一言で障害者と言っても、一人一人の特性は異なっており、個々の状況に合わせた支援が必要です。ある利用者には合っている支援方法が、他の利用者には上手くいかないということも度々あります。一人一人の特性を見極め、試行錯誤しながらその方に合った支援を行っていくことには難しさを感じることもあります。しかし、本人に合った支援をできた時には、大きな喜びや達成感を感じることができ、やりがいにもつながっています。

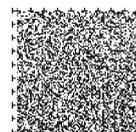
今後の目標を教えてください。

福祉の仕事は楽しいことばかりではありませんが、大きな喜びや達成感を感じられる仕事でもあります。これからもより良い支援ができるよう、多くの方々との関わりを通して学んでいきたいと思っています。

一日の業務の流れ（平常勤務の場合）

8:30	9:00	9:30	10:00	11:30	12:00	12:45
（出勤）	全体引継ぎ	活動支援① （歩行や作業）	活動支援② （水分補給・余暇）	食事支援（昼食）	（休憩）	入浴支援・ 日中活動支援

15:00	15:30	16:30	17:15
食事支援（おやつ）	日直業務	夜勤への引継ぎ	（退勤）



事業所インタビュー

ガッツジョブ FUKUSHI

社会福祉法人宮城厚生福祉会 介護老人福祉施設 田子のまち

〒983-0021 宮城県仙台市宮城野区田子字富里153番
Tel : 022-388-9970

このコーナーでは福祉に関する仕事や
団体などについて紹介します！



田子のまち 外観・建物内の様子

今回は、社会福祉法人宮城厚生福祉会の「介護老人福祉施設田子のまち」を訪問し、介護補助業務について、施設長と介護補助員のお二人にお話を伺いました。介護補助（介護助手）の仕事は、近年新しくできた仕事で、原則として介護を受ける方の身体に触れる「身体介護（食事補助、排せつ介助、入浴の補助など）」を行いません。介護補助（介護助手）は、介護人材の確保、介護サービスの質の向上、高齢者の就労支援という目的のため、必要性が高まっています。

Q. 介護補助業務を取り入れたきっかけを教えてください。

施設長の渡辺さん

もう何年も前のことです。当時、介護職不足が深刻でお部屋の掃除や食事の準備に細かく手が回らなくなることがありました。そのような中で「掃除や食事の準備は資格が無くてもできる業務なのではないか」という現場の声から、業務の見直しを行いました。そこで、ボランティアの方にお手伝いをしてもらっていた部分や身体的介助を伴わない業務などを介護職業務から切り分けて、介護補助業務として取り入れることにしました。

Q. 介護補助業務を取り入れたことによるメリットはありましたか。

施設長の渡辺さん

たくさんあります。介護補助業務を取り入れたことで、介護職員の業務改善につながり、残業時間が減りました。さらに、介護職員が入居者の方と触れ合える時間が増え、より深く関われるようになりました。入居者にとっても、自身を深く理解してもらえることが満足感につながっているようで、とても嬉しいことでした。加えて、お部屋の清掃なども徹底できるようになりました。今では介護補助員は無くてはならない存在です。

介護補助員に応募される方は、介護の資格や経験が無い場合や、異業種から転職される場合が多いです。そのような方々の「新しい目線」を大事にしていきたいですね。

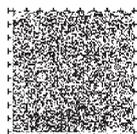
Q. 介護補助員のお仕事に就いてみて、いかがですか。

〇さん

現在は週4日、朝9時から午後2時までの5時間勤務しています。毎日無我夢中で、一日があっという間に過ぎていきます。入居者のお部屋に入る時は、自分の身内に接する気持ちでいます。「いつもお掃除してくれてありがとう」という声をいただけて嬉しいです、とても充実感があります。最初はとても不安でしたが、採用前にしっかり業務内容の説明があり、自分のできる範囲内で安心して働くことができています。



▲〇さんのお仕事の様子



X (旧Twitter)
フォローしてね♪
@miyagijinzaic

福祉のお仕事

FUKUSHI-JOB SEARCH



検索 <https://www.fukushi-work.jp/>

お問い合わせ

宮城県福祉人材センター
(TEL : 022-262-9777)
(貸付専用 TEL : 022-399-8844)

宮城県発達障害者支援センター「えくぼ」

宮城県発達障害者支援センター「えくぼ」は、宮城県からの委託を受け、平成18年11月から発達障害者支援法に基づく「発達障害者支援センター運営事業」を実施しています。発達障害者支援センターは、発達障害児者への支援を総合的に行うことを目的とした専門的な機関です。センターの事業内容は、人口規模や既存の地域資源など、地域の実情によって様々ですが、「えくぼ」の事業は主に以下の3つです。

① 総合相談窓口

県内（仙台市を除く）にお住いの発達障害を有する方（疑いを含む）とそのご家族や関係機関など、どなたでも利用可能な窓口です。発達、教育、就労などに関する様々なご相談を電話やメール・FAXで受け付け、助言や情報提供などを行います。

② 支援者支援

宮城県では、発達障害を有する方とご家族等が身近な地域で充実した支援を受けられる体制づくりを進めています。その中で、発達障害者支援センターは地域で活躍する支援者等をバックアップする役割を担っています。「えくぼ」は、18歳以上の方の支援や雇用等の関係機関を対象とし、発達障害者地域支援マネジャーと連携しながら、訪問または来所・オンラインによ

る相談に応じます。チームの一員として、特性に応じた支援等の具体的な方法や必要な環境調整について関係機関と共に検討します。

③ 普及啓発・ピアサポート活動

発達障害をより多くの人に理解してもらうため、毎年4月の「世界自閉症啓発デー」「発達障害啓発週間」に合わせたイベントを実施するほか、発達障害の特性や対応方法などについて解説したリーフレットの作成・配布などを行っています。また、支援者を対象とした研修会の開催や、関係機関からの講師派遣依頼にも応じています。さらに、発達障害を有する方々が少しでも生きづらさを解消し、よりよい生活が送れるよう、互いに励まし・支えあふ活動の場として、発達障害当事者交流会等を開催しています。

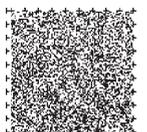


▲落ち着いた雰囲気相談室です



お問い合わせ先

〒981-3213
宮城県仙台市泉区南中山5丁目2-1
TEL : 022-376-5306
FAX : 022-379-5010



障害福祉サービス事業所 宮城県援護寮

こんなことやっています

大崎市古川にある宮城県援護寮（以下、「援護寮」という。）は、宮城県からの委託を受け、平成13年4月から、県内（仙台市を除く）に住む入院の必要がない精神的な病気や障害を持つ方を対象として支援を行っている施設です。宿泊しながら自立して生活するための訓練を行います。利用期間は2年間です。基本的な支援内容や、力を入れている取組は以下のとおりです。

① 支援内容について

援護寮の基本的な支援内容としては、自立訓練（生活訓練）と宿泊型自立訓練があります。自立した生活を営むために必要な消費生活講座や創作活動などの日中プログラム、個別の支援を通して訓練を行います。また、宿泊をしながら服薬管理や金銭管理、掃除、調理など日常生活技術を習得するための支援や、生活に関する相談・助言などを行います。

そのほか、障害のある方が短期間入所し、静養したり必要な支援を受けたりすることで、利用者やそのご家族にとって息抜きとなる支援も行っています。

② 社会生活技能訓練 (SST) について

地域での生活に必要な知識を身に付けるため、様々な日中プログラムを実施していますが、

その中でも、「コミュニケーション能力の向上を目的とした「社会生活技能訓練（SST）」に力を入れています。SSTでは、

日常生活で人と関わる場面を想定し、職員が手本を見せたり、利用者が練習したりすることで、対人関係の問題を減らす支援を行います。実際にSSTに取り組んでみたところ、病気からの回復に



向けた対処方法として効果があつたため、支援者を対象とした研修会も開催しています。

③ 最後に

地域生活に移行する前には、利用者やそのご家族、相談支援専門員、市町村担当者、主治医

など地元の支援関係者とのケア会議を開催し、安心して地域生活を送ることができるよう支援しています。

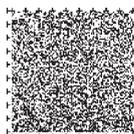
地域生活への移行先として、近年では单身や家庭復帰よりもグループホームへの移行が増えています。



今後も、利用者が主体的にご自身の将来を思い描き、その思いが実現できるような支援を行っていきます。

お問い合わせ先

〒989-6117
宮城県大崎市古川旭5丁目7-21
TEL：0229-23-1513
FAX：0229-23-1562



地域に根差した

社会貢献活動について

一般社団法人生命保険協会宮城県協会

地域に根差した活動

一般社団法人生命保険協会宮城県協会（以下、「宮城県協会」という。）では、地域社会の一員として、献血を推進する運動や、介護福祉士や保育士を目指す人への奨学金の給付など様々な社会貢献活動に取り組んでいます。

その活動の一つである募金活動は、宮城県協会に加盟している企業の約6000名の職員を対象に行っています。集まった募金を基に地域の実情や要望に応じて、子ども食堂への物品寄贈や資金助成、障がい者団体への支援、「仙台ののちの電話」への支援、保育園への絵本の寄贈や県内の社会福祉協議会への車両の寄贈などを行

っています。車両については、昨年度の角田市社会福祉協議会への寄贈で累計38台目となりました。



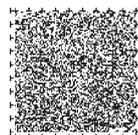
社会貢献活動への思い

こうした活動に取り組む上で意識していることとして「広い視点を持つて必要なところに必要な手を差し伸べたい。東北の中核である宮城県だからこそサポートすべき場所がある」と話すのは、事務局長の橋本潔さん。絵本の寄贈については、東日本大震災で絵本を流された沿岸部の保育園を主な対象として始めたものであり、昨年度で累計217か所に、3000冊以上寄贈しています。現在は沿岸部だけではなく県内全域を対象に取り組んでおり、橋本さんは、「毎年絵本を寄贈する際に子ども達の喜ぶ姿や笑顔を見られることが楽しみになっている」と話されました。また、昨年から東北6県と新潟県の計7県の視覚障がい者をサポートしている「日本盲導犬協会仙台訓練センター」への支援を始めたとのこと。これまでの支援を継続するだけでなく、地域

の実情やニーズに応じて新たな活動にも取り組んでいることが分かりました。

今後に向けて

橋本さんによると、宮城県協会では、本業である生命保険という機能を通じて社会に安全・安心を提供していくことだけでなく、様々な社会貢献活動を通して職員一人一人に関心や問題意識をもってもらうことが重要と考え、毎年の活動内容を職員にフィードバックしているとのこと。また、今後の展望として「これからの時代や地域の実情に合わせ、どうすれば効果的に貢献できるのかを考えながら活動を続けていきたい」とも話す橋本さん。職員の見識が高まり、より地域に根差した社会貢献活動に取り組んでいく、宮城県協会のこれからの活動を本会としても応援していきたいと思



～登米・栗原校編～

開設から23年目を迎えた登米・栗原校は、今年度17名の新入生を迎えました。出身地も職歴も違う方々が集まり、2年生10名と一緒に様々な学習やスポーツ、文化活動に和気あいあいと取り組んでいます。

● はじめての校外学習

今年4月に入学してきた第23期の1年生が、5月に初めての校外学習に行ってきました。

かつて松尾芭蕉が立ち寄ったとされる登米市内の名所「旧跡をめぐる「おくのほそ道ツアー」で、講師から具体的な説明を聞きながらバスで移動しました。1年生は、新しい知識を得て、改めて学びを深めることができました。

そして、最後にはとても楽しそうな笑顔で集合写真に写る様子から、この日はとても充実した、思い出深い一日になったことが伝わります。



● みんなで奉仕活動

6月には授業の一環として、1・2年生が合同で奉仕活動を行いました。早くも初夏の日差しを感じる中、伝う汗を拭いながら、迫公民館周辺の植栽活動に一生懸命取り組みました。

コミュニケーションを取りながら、楽しそうな表情をみせる皆さんに、植えられた花もとても喜んでいただくでしょう。

活動後の表情は、植えられた花に負けず劣らず輝いていました。



● それぞれの授業風景

7月初旬の授業では、日々暑さが増していく中ではありましたが、暑さに負けず熱心に授業を受けている様子が見られました。

1年生の講義内容は「くらしと川柳」で、一人一人が一句詠み、特にすばらしい句を詠んだ方は講師から表彰されていました。

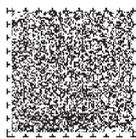
2年生の講義では「シニア



の身だしなみ」という題目で、楽しいシニアのおしゃれについて学びました。

どの授業の写真を見ても、とても楽しそうに受講されている学園生の姿が印象的です。

いきいき学園は他4校を運営しています。どの学園もそれぞれの地域の特色があり、明るく楽しい学園生活を送っています。それぞれの地元の資源を生かした取組とおし、学園生にとって有意義な学びの場を提供していきます。



第32回シニア美術展開催について

高齢者の文化活動として、創作による作品(日本画・洋画・書・写真・工芸)の募集・展示をとおして、ふれあいと生きがいづくりの促進を目的に開催します。

展示会場：せんだいメディアテーク

ギャラリー3300a(仙台市青葉区春日町2-1)

開催期間：令和6年11月22日(金)から11月24日(日)まで

募集部門：日本画・洋画・書・写真・工芸の5部門

応募資格：県内在住60歳以上のアマチュアの方

出展申込料：1点につき1,000円

申込期間：令和6年9月30日(月)まで ※当日消印有効

※出展規格、出展方法、詳細は本会ホームページから作品募集案内を御参照ください。



▲第31回宮城シニア美術展の様子

シニア美術展について お問い合わせ・申し込み先
宮城県社会福祉協議会 いきがい推進センター
TEL：022-223-1171

宮城県社協のホームページはこちら
<https://www.miyagi-sfk.net/>



宮城県社会福祉協議会 賛助会員募集!

宮城県社会福祉協議会は「誰もが身近な地域で安心していきいきと暮らせる地域づくり」を行うため、地域の多様な組織・団体と力を合わせて、幅広い活動に取り組んでいます。

企業の皆様、各種団体の皆様、住民の皆様にも、福祉のまちづくりと、宮城県にお住いの方々が抱える困りごとの解決に向けて、お力添えをいただきたく、会員を募集しています。



※「賛助会員」とは、本会の趣旨に賛同し、会員としてご協力くださる団体及び個人のことで

法人会費 1口 10,000円

個人会費 1口 5,000円

会費使途

- 県内の福祉の向上のための各種研修会やセミナー、福祉関係者会議等の開催
- 市町村社会福祉協議会の活動支援
- 社会福祉事業経営支援事業
- 「福祉みやぎ」の発行 他

会員特典

- 福祉みやぎ(本会広報誌)を毎月送付します。
- 本会で実施する研修受講料の割引があります。
- 広報誌や、ホームページバナー等での広告料の割引があります。
- 本会発行の刊行物紙面上での広報が可能です。

お問い合わせ・申し込み先 宮城県社会福祉協議会 総務部経営戦略課 TEL 022-779-6963 総務部経営戦略課 財務係

ボランティア・福祉活動行事保険をご利用ください

「ボランティア団体で主催する行事」や、「高齢者施設への慰問や福祉まつりなど、福祉的な行事」を安心して行うための保険です。日帰り行事向けの「I型」と、宿泊行事向けの「II型」がございます。

日帰り行事の場合には、内容により保険料が異なります。

A区分	高齢者スポーツ大会、お茶のみ会、各種教室など	30円
B区分	運動会、日帰りキャンプ、サイクリングなど	136円
C区分	サッカー、ラグビー、スキーなど	266円

お問い合わせ

みやぎボランティア総合センター
三井住友海上火災保険株式会社
(株)オンワード・マエノ

TEL022-266-3951
TEL022-221-3171
TEL022-762-9915

この制度の各補償は宮城県社会福祉協議会が保険会社と締結した保険約款により行います。

日帰り行事は
熱中症・食中毒も
補償されてますます安心!

この印刷物は、植物性油インキを使用し、環境にやさしい水なし印刷方式を採用しています。



「福祉みやぎ」は宮城県社協のホームページでもご覧になれます。また、ご意見、ご感想、とりあげて欲しいテーマなどをお寄せください。表紙の作品も募集しています。

